

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告

学校法人成城学園

認定こども園 日吉幼稚園

## 1. 本園の教育目標

「社会を生き抜く体力のある子ども」を標榜し、幼児がその時期にふさわしい自己を発揮しながら、幼児みずからが主体的に活動することを通して、ひとりひとりにふさわしい自我を形成していくことをめざす。

そして、集団社会に適応する人格を醸成するとともに、好奇心や探究心旺盛な心情と意欲を高め、幼児の思いを行動や言葉で表すことのできる旺盛な態度を育成する。

## 2. 本年度の重点的な目標・計画

教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。

新型コロナウイルス感染予防

ICTの活用を模索する

0～2歳の子育て支援

働き方改革

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。	月1回の月案会議では子どもの育ちを出し合い、五領域に照らし合わせて振り返りをしてきた。その際には発達的な視点を持ちながら子どもの姿を見取ることも学んできた。しかしその学びを指導計画に反映し、実践ができるところまではまだ十分とは言えないところがある。
新型コロナウイルスの感染予防	消毒用品や非接触型の体温測定器、紫外線消毒器などを使用しながら、基本的な感染予防（3密を避ける）を行ってきた。休園も何回もあり、保育の中断もあったが、園内の感染予防に対するマニュアルも活用し、予防は努められた。陽性者を出した時の濃厚接触者の検討には時間を費やすこともあり、濃厚接触者を出さないためにマスクの着用を徹底した。
ICTの活用を模索する	昨年始めたYouTubeを使って、保護者に子どもの様子や学びを配信した。また研修もzoomを使うなどで活用した。次年度に向けて教員一人1台のPCと園内のデータを一つに集約する準備を始めた。
0～2歳の子育て支援	0歳児の「すくすく広場」は昨年度に開催していたが、「ぴいちゃん広場」という親子で遊べる1歳児の会員制クラスを新たにスタートさせた。コロ

	<p>ナ禍での募集にまだ少ない会員ではあるが、少しでも親子が安心してゆったりと遊べるスペースとして今後も支援していきたい。また保護者同士のつながりもコロナ禍で希薄になってきているので出会いの場としても大いにアピールしていきたい。</p>
働き方改革	<p>労務量を減らすための検討を行ってきているが、なかなか分業が進まないところもある。ICT化による時間短縮もできるように模索中である。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>【1】教育課程については学年別の子どもの姿が具体性をもって作成できるための要素を明確に実現する方向で進めた。</p> <p>「子どもの姿を5領域の視点で振り返り、子どもを理解する」  「子どもの意図を読みとり、活動と育ちの方向を見通す」  「子どもの主体性を支える方法で保育立案する」</p> <p>を毎月の保育会議で確実にできるよう進めてきたが、保育者の視点がバランスよく子どもを見るようになってきている。</p> <p>「子どもの意図と育ちの方向を見出す力」「主体性を支える立案」については徐々に力をつけつつあるがより確かなものにしていくテーマでもある。</p> <p>【2】コロナ対策は、子ども自身が手指消毒・マスク着脱や分散活動などのライフスタイルに慣れてきているために感染予防対策が園児自身に一定着化してきている。しかし、対話の際に他者の表情が見えにくいことや自分の意志表示に表情が伝わりにくいことも他方で課題である。</p> <p>合唱や鍵盤ハーモニカなどの制約が解除されることも望まれる。</p> <p>【3】ICTの活用としてはPCを個人もちとしていったことで、職員間の情報共有には一層の活用がすすめられ、職員全体で共有サーバーの活用が進み、子どもの情報共有が深まった。今後一層の活用により園児情報の収集が省力・省時間につながるようにしていきたい。</p> <p>園児についてはゲーム脳などゲーム中毒などへの対策が今後一層求められると予測される。乳幼児期は五感を活用した活動が重要であるため、園児および家庭への啓発が必要であると考えます。</p> <p>【4】3歳未満児親子の子育て支援は、コロナによる制約を受けつつも高谷(ミミちゃん広場:2歳児親子) 畠村(すくすく広場:1歳児親子・びいちゃん広場:0歳児親子)が維持継続しており、コロナ自粛で参加者が少ないながらも来園者には好評を得ている。</p> <p>今後の参加者による口コミとともに、告知も積極的に進めていきたい。</p> <p>【5】働き方改革は、分業化による業務の分散化を少しでも増やしていきたい。現在は清掃の外注もあるが、分業化としては不十分である。教員でなくてもできる周辺業務の分業化を今後進めていきたい。</p> <p>また、保育に関しても専門職・ボランティア・補助職などの導入により、「特別支援」「保護者および保育者対象のカウンセリング」「安全点検」「園児の安全見守り」「体育あそび」「英語等異文化体験」「木工あそび」「科学あそび」などの活動環境の充実を図り、分業化の一環として位置付けていきたい。</p>
--

## 5 . 今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。	ECEQ の公開保育を実施し、園の強みを生かし、また自分自身の保育を振り返り、他園の方たちからのフィードバックも取り入れ保育計画に反映し、実践する。
2	新型コロナウイルス感染予防	コロナ感染状況により、その都度、国の動向と市の指導に応じた対応を行う。できるだけコロナ前の保育と保護者が来園できるような工夫を行い、昨年できなかった行事なども実行する。
3	ICT の活用を模索する	PC を一人 1 台設置し、園内 LUN の整備、サーバー整備等を保育記録、写真・動画管理、会議等業務の合理化を引き続き進めていく。
4	0～2 歳の子育て支援	すくすく広場やぴいちゃん広場の案内を改めて行い、気軽に来園できたり、会員としての募集も行い、充実させる。利用者の意見を聞きながら、広場を集いやすくしたり、子育ての悩みなども聞きながら発信物などの工夫も行う。
5	働き方改革	労務量を減らすため、清掃業務・ICT 化による時間短縮を図る。持ち帰りの業務が生じないようにするとともに、教職員の就労時間に個人差が出ないよう、各人の労務意識の確認や変革もはかる。放課後の仕事内容を吟味し、労務量を減らす工夫につなげる。
6	階級制の検討・模索	ミドルリーダーとしての自覚が出てきているが、他の階級と職務分掌とがまだ明確に分けられていないところもある。管理職のコミュニケーションを図りながら課題を実現化していく。

## 6 . 学校関係者評価

	項 目	具体的内容
1	マスク着用について	感染対策は子どもたちも日常的になれば無理なくできていくと思われれます。 しかしマスクについては服と同じく「着用していた当たり前」と考える子どもが多いと聞きます。 評価結果の記述通り、表情が見えにくい、伝わりにくいがあります。 大人でも都合の悪い時の表情隠し等を考える中、今後の成長に及ぼす影響が気になります。
2	ICT 活用について	ICT の活用時間を決めるのが良いのではないかと思います。実際に一日スマホ・パソコンを使用せず身体を動かしたりするとストレスの少ない状態になる事例を聞いています。

		<p>多くの方が労務量について悩んでおられると思います。ICT の活用を進めるのもひとつの手段だと思いますが、これをストレスと感じる人も多いでしょう。</p> <p>例えば昼食後 20~30 分の仮眠をとらせる企業もあるらしく精神ケアシステムもあるほうがよいでしょうか。</p> <p>コロナ禍で、園に足を運ぶ機会が限られているため、大変有効な活用だと評価します。研修時にも使用するなど、保育者の力量形成にも利用され、今後は働き方改革にも活かされることと期待されます。今後は保育内容の中で幼少接続も念頭に ICT の取り組みを考えていかれることも検討してもらえればと思います。</p>
3	保護者活動について	<p>保護者同士のコミュニケーションが減っているとのこと、気になっていました。出会いの場としてますます活用していただきたいと思います。</p>
4	教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。	<p>毎月の月案会議での子どもの育ちの読み取りの経験が、各保育者の力量形成につながっているのだと考えます。更に年齢に応じた保育計画の中に一人一人の子どもに対する計画(援助や環境構成)も行える力が保育者に形成されていきつつあることと理解しています。</p> <p>保育者の退職等もあるでしょうが、学び続ける保育集団である意識を共有してもらえると嬉しいです。</p>

## 7.財務概要

少子化の影響とともに日吉幼稚園の通園範囲に多くの新設園ができたため、3年保育入園児は27名程度減少し、収支に影響した一年であった。

昨年に引き続き、高槻市民間保育所等運営費補助金(保育環境改善事業)が交付され、感染拡大防止対策は概ね対応できた。

北側の小園庭に、開閉式遮光雨除けテントを設置した。暑い日、雨でも遊べる場所設置し、感染防止を兼ねた屋外活動の場所を確保した。

働き方改革として、教職員にパソコン一人一台の使用とし、サーバーを設けデータを共有することにより事務の軽減化に向けてスタートした。

教職員の給与については、「臨時処遇特例補助金」が交付され更なる処遇改善が図られた。

### 財務概要

少子化の影響とともに日吉幼稚園の通園範囲に多くの新設園ができたため、3年保育入園児の減少が、収支に影響した一年であった。

昨年に引き続き、高槻市民間保育所等運営費補助金(保育環境改善事業)が交付され、感染拡大防止対策は概

ね対応できた。

北側の小園庭に、開閉式遮光雨除けテント設置による臨時支出があったが暑い日や雨でも遊べる場所が設置でき、感染防止を兼ねた屋外活動の場所を確保することができた。

働き方改革として、教職員にパソコン一人一台の使用とし、サーバーを設けデータを共有することによる支出が発生したが事務の軽減化に向けてスタートすることができた。

教職員の給与については、「臨時処遇特例補助金」が交付され更なる処遇改善が図られ、当法人独自の処遇改善に加え、諸物価高騰に対応すべく更なる教職員の処遇改善を図ることができている。全体的な財務状況としては、大きな変動はなく順調であった。